令和6年度　臼田中学校グランドデザイン

【学校教育理念】

「桃李不言下自成蹊」の精神
桃李は言らず下に自ずと蹊を成す
（史記）

⇒人望・信頼のある人には、自然と人が集まる、の意

【学校長の願い】

・なりたい自分をもち、生徒も教師もなりたい自分になる努力を継続する。

・地域と協働し、地域を支える人材となる生徒を育成する。

【教師としての心構え】

『教育とは不完全な教師が不完全な子どもを導くこと　子どもを意のままに動かすことを恐れよ』

（教育学者　上田薫先生の言葉より）

【めざす学校像】

- あいさつの響く学校
- 学習力を高める学校
- 表現力を高める学校
- 地域との連携を深める学校

【めざす生徒像】

・基礎基本を大切に自ら学ぶ・共に学ぶ、学び方を学ぶ生徒
・思いやり、感性、社会性を磨き、高める生徒
・鍛錬、健康学習、食育推進を生かせる生徒

【学校教育目標】

「信頼される人になる」

◎疑問を大切にし、学力を身につけよう。
（知育）
◎優しさを大切に、思いやりの心を育てよう。
（徳育）
◎継続を大切に、強い心と体をつくろう。
（体育）

【生徒の実態】　◎ 良い点・更に伸ばしたい点

○素直で気持ちが安定した生活が送れている。
○落ち着いた雰囲気で、書くこと、聞くことを通した個人追究ができる。
○自分の考えを自分の言葉でまとめて、相手に伝えることができる表現力。
○友と関わり合う中で学びを深めていくコミュニケーション能力。

【教育課題】

・家庭問題に起因する生徒の心の問題への支援
・基礎的な学力を確実に定着させる指導
・課題を設定する力の向上と探究的な学びにつながる段階的指導

学校教育目標を具現するための３つの柱（重点）

１　教科・領域の指導

各教科
①「分かる授業」を念頭に置いた授業改善と授業のユニバーサルデザイン化の工夫
②ＩＣＴ活用による授業の終末での「まとめ」や相手意識を持った「発信」の充実を意識した授業作り
※ＩＣＴ教材を取り入れた生徒の活動時間や発信の確保

特別の教科　道徳
①考える場面、議論する場面を念頭に入れた授業構想
②その子の「良さ」の変容に着目した評価

総合的な学習の時間・特別活動
①「ふるさと佐久～佐久を知り、佐久で働き、佐久に貢献する」～３年間を見通した系統的なカリキュラムの構築
②地域の職業人との交流を通して、自らの生き方を考えるキャリア教育の充実

２　生徒指導（学級経営）

①生徒の思いを受け止め、生徒に寄り添うきめ細かな指導観の確立
②当たり前にできることを見逃さず、温かな評価を生かす人間関係力の育成
③「場を清め、時を守り、礼を正す」を軸にした生徒指導の充実
④歌声を響かせることによる共に創ることのよさ、達成感の感得
⑤全職員で支える配慮生徒への支援体制の充実と外部機関との連携
（不登校支援部会を軸に）

３　生徒会・部活動・行事等

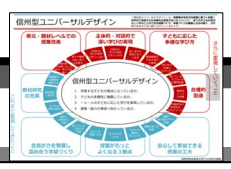
①生徒会の取り組みを全体で共有し合い、達成感・成就感を味わえる温かな指導
②全職員で支援体制を組み、仲間との支え合いの素晴らしさを感得させたり、忍耐力を育てたりする部活動指導
③学級や学年を含めた様々な行事や奉仕活動等での学びを生活づくりに生かす指導

【全校研究テーマ】

生徒自身が「わかった」「できた」を自覚し、表現する生徒の育成

【研究の重点】

①授業の終末における振り返りの充実～授業の終末で生徒が「わかった・できた」「わからない・できない」を意識化し、表現したり、共有したりすることで、自己の高まりや課題を自覚することができる。
②指導と評価の一体化の充実～ＩＣＴを活用することで生徒の実態を即座に把握し、指導のあり方や改善方法を工夫することができる。
③授業改善に向けたＰＤＣＡサイクルの推進～定期的な授業改善アンケートで生徒の意識を把握することで、自己課題に基づく自らの実践を振り返り、指導方法や学習環境の改善につなげるＰＤＣＡサイクルを構築する。



3つの柱における日常における実践ポイント

①学級経営の充実
・一人一人が安心して生活できる学級集団
・自主的、実践的な学級集団
・生徒相談日による個の理解の充実
・不登校生徒への対応（外部機関との連携）
・組織としての対応の充実～チーム学校

②生命の尊重と、正しい人権感覚の育成
・いじめ、差別、嫌がらせ、暴力を許さない学校
・人権感覚の錬磨（教師自身からの研修）
・一人で抱え込まず、情報の流れをよくし、早めに対応、協力して解決

③主体的に学び合い、高め合う職員研修の充実
・学びたいことを学ぶ～職員の興味・関心に基づく、学ぶ必要感のある研修の企画
・研修を受けた教員が講師となるミニ研修
・職員研修の日常化～働き方改革の視点から職員会の中でできる職員研修の実施

④家庭・保護者・地域との連携
・開かれた学校（学校だより、ホームページ）
・臼田中コミュニティスクールとの連携（人材活用）
・生徒会や部活動を通した地域との交流（ボランティア）
・小学校や臼田地区ＰＴＡとの連携

⑤健康・安全教育、食育の推進
・学年、学級に相応する性教育の充実
・給食週間を活用した食育の推進
・安全管理の啓発
・交通安全に対する意識の向上（交通安全教室）
・部活と怪我予防を結び付けた怪我予防の推進

【振り返りとフィードバックによる見直し】

①　生徒、保護者、コミュニティスクール推進委員、職員による学校評価、生徒による授業評価
②　研究授業、研究のふりかえり等による相互評価
③　全国学力・学習状況調査・定期テスト・授業改善アンケート等の結果分析からの改善